

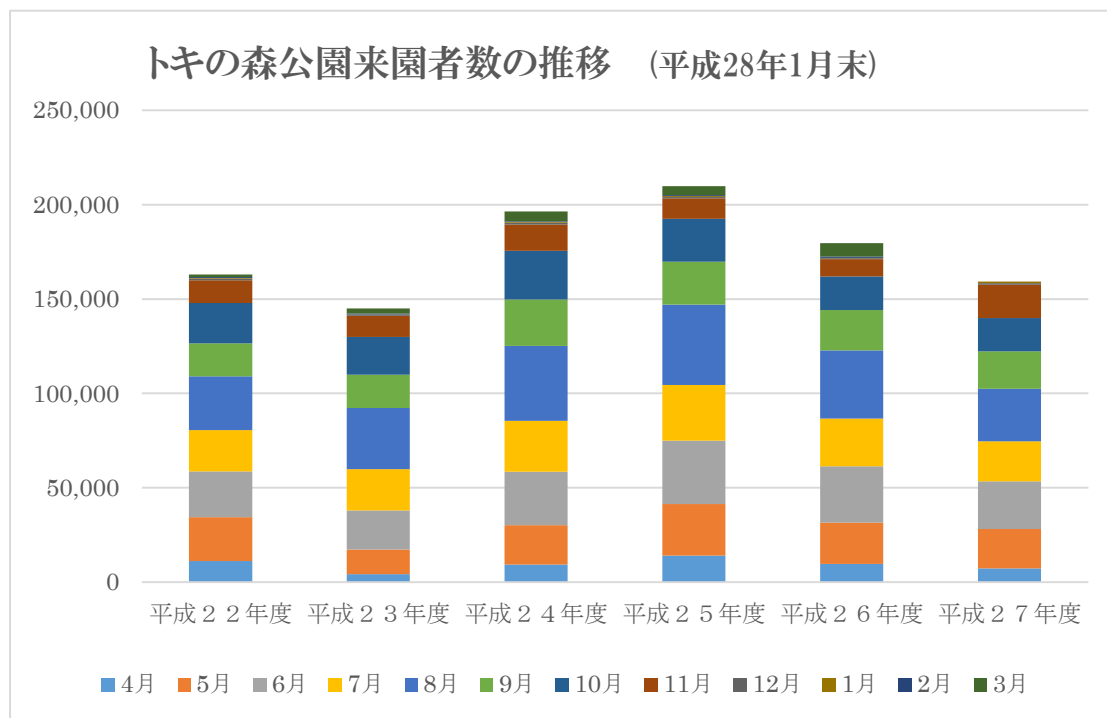
トキふれあいプラザの状況について

1 平成 28 年の繁殖及び飼育計画

平成 28 年、トキふれあいプラザにおける繁殖計画は AO ペア(No35♂×No241♀)による 3 年目の繁殖に取り組む。繁殖期の飼育形態は前年度と同様 AO ペアと共に前年ふ化の若鳥 2 羽 (No536♂及び No537♀)を加え 4 羽を飼育展示しながら実施する。なお、昨年は 2 月中旬以降、若鳥 3 羽に生殖羽への着色が次第に確認され、その後、親鳥からの追い払い・追廻しが発生し、特に追廻が激しかった No472♂(つなぐ)は捕獲分離した経緯があることから、観察を実施する中で異常が認められた場合は、直ちにトキ保護センターと協議の上対応する。

2 月初旬現在、AO ペアは何れも着色が進み、求愛行動も顕著になっている。若鳥に着色傾向は認められず、ペアと共に巣枠周囲で行動することが多いが、激しい追い払い等は見られていない。なお、AO ペアは 1 月 11 日♂の頸部に着色が確認され、翌 12 日からは偽交尾も見られている。

2 利用状況について



3 「トキ野生復帰 2015 シンポジウム」の開催

佐渡では、平成 12 年度から環境省の「共生と循環の地域社会づくりモデル事業」を実施し、希少な野生生物と地域社会の共生を実現するため、「トキ野生復帰環境再生ビジョン」を定め、本年度はその検証年となります。そこで、年間を通じてイベント等に取り組んでおり、11 月 22 日、あいぽーと佐渡を会場に「トキ野生復帰 2015 シンポジウム」を開催しました。会場には島民やトキ保護の関係者 240 名が来場しました。

シンポジウムでは、これまでのトキ野生復帰の経過についての報告、トキ野生復帰検討会座長の尾崎清明氏や日経 BP 社の藤田香氏による基調講演のほか、これからの野性復帰の取り組みや可能性などについてパネルディスカッションなどを行いました。



関係者報告

パネルディスカッション



4 冬季来園者への取り組み

今冬は暖冬傾向にあると共に、観光対策として「冬紀行」等の取り組みもあり、例年11月に入ると著しく来園者が減少しているが11月、12月及び1月とも対前年同月比で2倍の来園者があった。

また、トキふれあいプラザでは、2月の毎週木曜日にフィールドスコープを利用したスマートフォンによる「冬のトキ撮影会」を開催しており、撮影初日にはTV3社、新聞1社が取材に訪れ、観光客等参加者から好評を得ている。



スマホで撮っても美人です

5 施設修繕等について

12月下旬より、施設の改修・修繕を実施した。

工事内容は、ケージ目隠しヨシズの増設・一部張り替え、給水用井戸の点検、配管清掃等を実施。その結果、急遽設置後5年を経過した水中ポンプの交換を行った。

本作業に伴い12月24日(木)に飼育中のトキ6羽を捕獲し1月6日までの間、退避ケージに收容し作業を実施した。トキの捕獲後、昨年生まれの474(ときわ)、476(うみ)の2羽については、トキ保護センターへ移送・返還した。



ポンプ交換



ヨシズ増設

ヨシズ張り替え